

小学校 第6学年 国語科書写 学習指導案

東京都練馬区立大泉南小学校
主任教諭 田邊 佳代子

単元名 学習のまとめ『旅立ちの時』（3～4時間）

単元のねらい

- これまで学習してきたことを生かして、自分のめあてを選んで、めあてに気をつけて書くことができる。
- 文字の大きさと配列に気をつけて書くことができる。
- 文字の大きさを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。
- 6年間の学習を振り返り、自分の学習の成果を確かめることができる。
- 縦罫線の用紙に、配列に気をつけて書くことができる。

本時のねらい

これまで学習してきたことを生かして、自分のめあてを選んで、めあてに気をつけて書くことができる。

指導時期 2・3月

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

教材のデジタル化により、これまで以上に児童の学びの幅を広げることができると同時に、教師の教材研究の負担も軽減させる効果があるのではないかと考える。

動画教材を用いることで、用具の準備や持ち方、姿勢といった書く前段階の確認がいつでも手軽に行える。さらに、書く場面では、教師が「書いて見せる」必要がなく、筆使い、運筆の様子を繰り返し視聴することができる。教師それぞれの運筆力にかかわらず書写指導ができることは、大きなメリットと言える。また、以下に示す学習展開のように、児童が自分でめあてを立て、課題解決に向けて練習を行う場合には、必要なタイミングで、「学習者用デジタル教材」を用いて、児童自身が必要な動画を選択し、視聴することもできる。つまり、個に応じた学びの充実を図ることができるのだ。

紙の教科書のみを用いた書写指導では、掲載されている教材文字（手本）を見て、教材文字どおりに書くことを求める「字形指導」が中心となってしまうことが危惧されている。しかし、デジタル教材を用いて運筆動画を視聴することで、本来大切にされるべき書字過程に着目させ、指導をすることができる。教師が筆を持って書いて見せなくても、デジタル教材を上手に活用すれば、充実した書写の授業が展開できる。デジタル教材の活用によって、書写の授業の中で、児童が思考する場面をつくり出すことが容易になる。

本時（第1時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入 つかむ 考える	<ul style="list-style-type: none"> ● 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 	

導入
つかむ
考える

【ためし書きをしよう】

- 硬筆、毛筆で『旅立ちの時』を試書する。
T：教科書を見ずに『旅立ちの時』を書きましょう。

【めあてを知ろう】

めあて

学習してきたことを生かして、自分のめあてに
 気をつけて書こう。

- これまでに学習したことを生かし、自分でめあて
 を決めて書く学習であることを知る。

【考えよう】

- これまでに学習してきた内容が『旅立ちの時』の
 どの部分に生かせるか考える。
T：『旅立ちの時』を書くとき、今まで学習して
 きたことをどのように生かせようですか。
C：「旅」と「時」では、「左右の文字の組み立て方」
 で学んだことが生かせるね。
C：平仮名は漢字よりも少し小さく書くことを学
 習したね。
C：『思いやり』を書いたときに、配列や点画の
 つながりについても学習したね。今回も生か
 せようだよ。

ポイント

- ①筆使い**
 基本点画の筆使いに気をつける。
 平仮名は丸みのある線でやわらかく書く。
- ②文字の組み立て方**
 「旅」「時」……左右の文字の組み立て方
 に気をつける。
- ③文字の大きさ**
 平仮名は、漢字よりやや小さめに書く。
- ④配列**
 文字の中心を行の中心にそろえる。
 字間、行間、余白に気をつける。
- ⑤点画のつながり**
 次の画につなげるように書く。

- 大型モニターにp.6の姿勢図（「拡大スライド」）を提示
 しておく。



- 各自のタブレット端末で試書を撮影し、保存する。

- p.35の解説図（「拡大スライド」）を提示し、今まで学習
 してきた内容が教材文字のどの部分に含まれているか、
 児童相互で意見を出し合う活動を取り入れる。

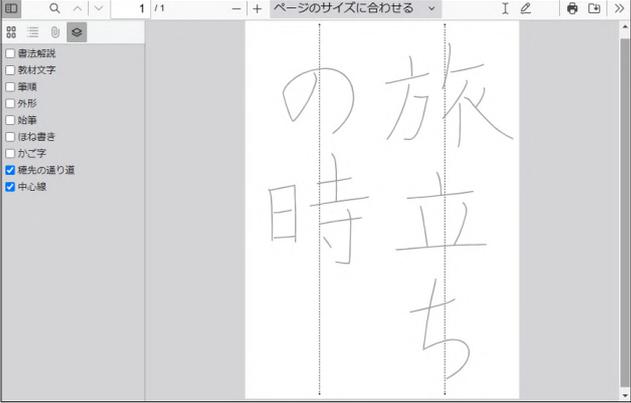
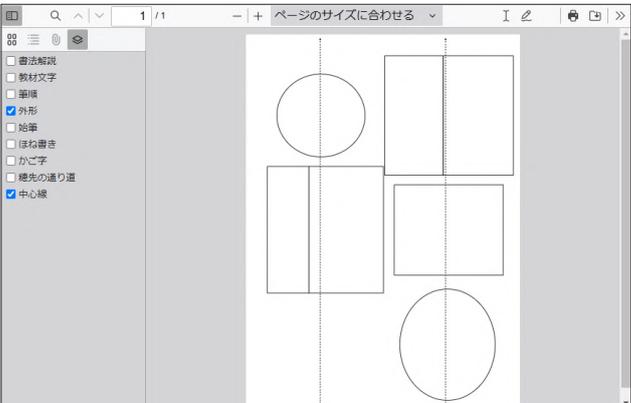


- 目次を提示すると、これまでの学習を思い出しやすい。



- 筆使い（平仮名、漢字）、文字の組み立て方、文字の大きさ、
 配列、点画のつながりといったポイントをおさえない。
 「指導者用デジタル教材」を用いて、関連する教材文字の
 ページを振り返りながら話し合うとよい。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入 つかむ 考える	<ul style="list-style-type: none"> ● 試書を批正し、課題を見つけ、自分のめあてを決める。 ■ T: 「比較ツール」を使って、試し書きと教科書の文字を比べ、自分の課題を見つけましょう。 ● C: 行の中心がずれてしまったことが課題だな。文字の中心を行の中心にそろえて書くようにしたい。 ⇒私のめあては、配列に気をつけて書くことです。 ● C: 私は、漢字と平仮名の大きさが同じくらいになってしまったから、平仮名をもう少し小さく書くようにしたい。 ⇒私のめあては、文字の大きさに気をつけて書くことです。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「比較ツール」を開き、タブレット端末で撮影した試書と教材文字を比べる。課題をペン機能で書き込む。教材文字にも、中心線を入れると、比べやすくなる。  <ul style="list-style-type: none"> ● 「比較ツール」の画面を提示しながら、児童どうしで自分の課題や、課題解決に向けた本時のめあてを伝え合う活動を入れるとよい。
展開 確かめる	<p>【練習をしよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運筆動画（「全体像」）に合わせて空書きをする。 ■ T: 運筆動画を見ながら、一緒に空書きをしましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ● 自分のめあてに気をつけて、『旅立ちの時』を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大型モニターにp.34の運筆動画（「全体像」）を映す。運筆動画に合わせて空書きをしながら、ポイントを確認する。  <ul style="list-style-type: none"> ● 練習中も、運筆動画を繰り返し流しておく。「学習者用デジタル教材」を用いて、児童がそれぞれ必要な動画を視聴し、確認することも考えられる。 ● 児童どうしで書字過程を見合う活動を取り入れることも、協働的な学びにおいて効果的である。タブレット端末のカメラ機能を用いると、撮影した映像を自分自身で見て、書字過程を確認することができる。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
<p>展開 確かめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の課題に合った「練習用紙」を選択したり、児童自身が作成したりして練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」の「練習用紙」は、必要な項目を選び、カスタマイズすることができる。  <p>例：穂先の通り道、中心線を選んだ場合</p>  <p>例：外形、中心線を選んだ場合</p>
<p>まとめ 振り返る</p>	<p>【まとめ書きをしよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●『旅立ちの時』を毛筆でまとめ書きする。 <p>【ふり返ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●試書とまとめ書きを比べて、自己評価・相互評価をする。 ●㊦：「立」の一画めを中心線に乗せるように書いたら、行の中心がそろった。 ●㊦：「の」の位置を少し下げて書いたら、全体のつり合いがとれるようになった。 ●次時の課題をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各自のタブレット端末でまとめ書きを撮影し、保存する。 ●「比較ツール」を用いて、試書とまとめ書きを比べる。  <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価</p> <p>これまで学習してきたことを生かして、自分のめあてを選び、めあてに気をつけて書いている。(知識・技能)</p> </div>

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

「教師が教える授業」から「子どもたちが自ら学び取る授業」へ～主体的・対話的で深い学びを目指して～

デジタル教材には、学びのための道具としてさまざまなコンテンツや機能が搭載されている。それらを上手に活用することで、これまで紙の教科書では難しかった書写指導の充実を図ることができる。教師それぞれの運筆力にかかわらず、デジタル教材の活用によって、児童が主体的・対話的に学ぶ授業づくりができるのだ。

● 「運筆動画」の活用

文字の完成形だけを示す従来の指導では、本来大切にすべき運筆動作に目を向けさせにくいという欠点があった。児童は、どうしても教材文字に近づけること、教材文字どおりに書くことに意識が向き、筆を動かすリズムや筆圧の強弱といった、手書き文字において重要な要素に気づくことが難しい。しかし、運筆動画を活用することで、教師が自ら筆を持たずとも、書字過程を効果的に示すことが容易になる。指導をする側の意識としても、書いた結果のみならず、書いている過程に目を向けていくことを忘れず、児童に対して必要な声かけを行っていききたい。

また、運筆動画の種類についても、用紙全体を映し出したものに加え、穂先の動きがわかりやすいものもある。児童一人一人が、自分の目的に応じて、必要な場面でそれらを活用することができる点は、デジタル教材の大きなメリットだと言える。自らの課題解決に向け、適切に動画を選択し、活用できる力を育てていきたい。

● 「比較ツール」の活用

本時では、導入とまとめの段階で、「比較ツール」を用いる場面を設定した。

導入では、タブレット端末で撮影した試書と教材文字を並べて比較し、ペン機能を使って直接書き込みをすることで、自分の課題に気づかせる。自分の課題を明確にすることは、「教師が教える」だけの授業から、児童が自ら考え、学び取る「課題解決型」の授業へと変化する。

まとめの場面では、試書とまとめ書きを並べ、自己評価・相互評価をする際に用いるとよい。タブレット端末の画面に、文字を並べて表示できるので、自己の変容とその理由を自覚しやすいうえ、児童どうしの交流も手軽に行えるといった利点がある。互いに変容を認め合うことが自信となり、学習に対する意欲の高まりにもつながっていく。

また、書いた文字を毎時間撮りため、学びの記録として残しておけば、一単位時間のみならず、前時からの変容、前単元からの変容、さらには一年前からの変容にも気づかせ、自身の成長を実感させることができるのではないかな。

● 「練習用紙」の活用

「指導者用デジタル教材」には、「練習用紙」も搭載されている。書法解説、教材文字、筆順、外形、始筆、ほね書き、かご字、穂先の通り道、中心線の九つの項目から必要なものを選択するだけで、オリジナルの「練習用紙」が作成できる。児童の実態に応じた準備が手早くできることは、教師にとって大きな利点であると言える。

デジタル教材に搭載されているさまざまなコンテンツや機能を、学習内容に応じて組み合わせ、活用することで、書写の学びを深めていきたい。